



名古屋記念病院

伊奈 研次 副院長

粥川 哲 血液内科部長
感染対策委員長

松浦 三恵子 看護部部長

北原 陽子 感染管理認定看護師

田尻 千晴 薬剤師

榊原 勝 検査技師長

取材・文

読売新聞中部支社 前編集委員
医療コーディネーター

片岡 太

名古屋記念病院 院内感染に対する取り組み

名古屋記念病院(名古屋市天白区平針、藤田民夫院長)は、入院患者さんに安心して入院生活を送ってもらうため、院内感染防止を最大の目標とした感染対策室を立ち上げて早期発見、早期対処に全力で取り組み、大きな成果を上げている。医療の最前線で院内感染に立ち向かっている感染対策室の伊奈研次副院長、血液内科部長で感染対策委員長の粥川哲医師、松浦三恵子看護師、北原陽子看護師、田尻千晴薬剤師、榊原勝検査技師に話を聞いた。

Q. 院内感染症は病院にとっては大きな問題ですね。



伊奈副院長／患者さんの生命を助けることを最優先に医療に取り組んでいる病院としては、院内感染対策はしっかり取り組んでいかなければ

ならない問題だと認識しています。

粥川部長／院内感染は「入院して48時間後に感染症になること」と定義づけられています。院内感染については、常日頃から細心の注意を払っています。



Q. 院内感染対策は難しいですね。

粥川部長／確かに難しい面はあります。だからといって手をこまねいているわけにはいきません。

Q. 名古屋記念病院は院内感染にはどんな取り組みをしていますか。

伊奈副院長／院内感染対策の議決機関としての感染対策委員会があり、実働機関として感染対策室があります。この対策室が具体的、かつ効果的な対策を立案し、可

及的速やかに実行する組織として感染対策チーム(ICT)があります。さらにその下に医療現場で感染対策に取り組んでいるリンク会があります。このリンク会が各科・各部署のスタッフから生の声を吸い上げることにしています。

粥川部長／入院患者さんの状態をいち早く把握し、どんな状態であるかを良く知る立場にいるのが接点の多い各科・各部署の看護師です。入院患者さんのそうした異変を察知した看護師はすぐさま感染対策室に報告します。そしてその情報を感染対策チームに連絡、感染対策室は綿密、かつ多角的に検討し、的確な対策を打ち立てて